

埋立ごみの量

85%
減!

1998年
4,382t

2018年
670t



大崎町の「そおりサイクルセンター」に集められた資源ごみは、27種類からさらに細かく分けられ、九州や、遠くは北海道まで運ばれます。ただごみを集めるだけではなく、どこで、どういうふうに、何にリサイクルされるのかの道筋を確保することで、高いリサイクル率を維持できたり、リサイクルに関わる仕事ができ雇用が生まれたりしています。

大崎町のやり方を海外へも展開



インドネシア展開の話



埋立処分場の延命化のために始めた大崎町の仕組みを、インドネシア大学が注目して鹿児島大学経由で相互交流をスタートしました。その後、JICA（国際協力機構）の草の根技術協力事業を活用して、西ジャワ州のデポック市から要請を受け、技術協力を実施しました。2012年、最初に訪問したデポック市は、人口約200万人の大都市。現地の埋立処分場は、ごみの山。しかもジャカルタまで続く川に、ごみが不法投棄され水をせき止め、ジャカルタの街が浸水する原因になっている状態でした。

私は現地の人たちに「埋立処分場に行くごみを減らすことなら、今すぐにでもできる」って言ったんです。やると覚悟を決めたら、できる。大崎町だってできたんだから。現地では、堆肥化がすぐにおこなわれていたから、より質を上げるための方法と、プラスチックなど分かりやすいものの分別を指導しました。その後、デポックだけでなく同じインドネシアのバリ州デンパサール市とジャカルタ州からも要請を受けて、訪問しました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束したら、また向こうに行って、中断しているインドネシア版そおりサイクルセンター作りを再開したい。現地の人たちも、待っていますからね。

徳禮さんのお話を踏まえて

分別が始まった当初の様子もうかがい、ゼロからのスタートが色んな状況乗り越え、現在まで続けられていることに、改めて大崎町のみなさんが積み重ねてきた努力の素晴らしさを実感しました。7月28日の夜には、協議会主催の初のオンラインツアーを実施。満員御礼となり、大崎町やりサイクルの取り組みに対する関心の高さを改めて感じました。これからもっともっと世界中に広めていけるよう、私たちも一緒になって取り組みます！



公式サイトは
こちら

SNSもやってます！



お問い合わせはこちら

大崎町SDGs推進協議会

〒899-7301 鹿児島県曾於郡大崎町菱田1441

ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅 管理棟2F

info@osakini.org / 099-478-1487